

高校生の授業参加と理解度、授業評価

二宮 恒夫、郷木 義子、廣原 紀恵、板東 孝枝、奥田紀久子、
谷 洋江、橋本浩子、芝崎 恵、岸田佐智
(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部)

はじめに

高大連携の一環として、高校生の授業参加がある。高校生にとって有意義な体験になることが望ましい。

今回、体験学習の検討資料の目的で、疾病論Ⅳの小児疾病分野についての7回の講義と、免疫学1回の講義の理解度チェックを大学生と比較検討した。また、小児疾病については、授業評価の比較結果もあわせ報告する。

対象と方法

疾病論Ⅳ、免疫学は、大学2年生を対象に行っている講義である。高校生の授業参加は、小児疾病は初回の講義から参加し、7回で終了である。免疫学への参加は、途中1回かぎりの参加であり、体験のみが目的であると思われる授業参加であった。

高校生の参加数は、小児疾病が19人、免疫学は14人であった。

授業評価は、従来から行われている授業に関するアンケート(医歯薬学部共通)用紙を用いた学生による評価方法である。

理解度チェック票は独自に考案したものである。これは、その日に講義する内容について、強調したい事項を3つにしぼって、その理解度をチェックするものである。強調したい3事項は、シラバスに記載のその日の講義予定の1項目を3分割したものである。

1回の講義に3項目の理解をチェックする方法であるから、7回の講義であった小児疾病では21項目の理解度を評価することになる。免疫学については3項目の理解度である。

その日の講義開始時に配布し、終了時に学生に記載させ提出させた。理解度は、5段階評価(100%の理解が5、0%は1とし、その間の75%、

50%、25%を、それぞれ4、3、2)とした。

理解度は、平均を算出し、4.0以上を目標とした。

結果と考察

1) 小児疾病の理解度

図1に小児疾病の理解度について、大学生と高校生の比較を示した。どの講義項目についても、高校生の理解度は低かったが、講義内容の50%以上は理解していた。

2) 小児疾病の授業評価の大学生と高校生の比較(表1)

授業評価の設問項目は、設問1、2、7の3項目は学生の自己評価、あとの6項目は教員の授業に対する評価からなっている。どの項目も大学生に比べて高校生が低く、設問5の授業内容の理解に関しては差が大きく、これは大学1年で得られた基礎知識が影響していると思われる。高校生は、この授業を希望しての受講であることを考えると、設問1の積極性に関して大学生と同等の数字が予想されたが低いことは、高校生は自己評価が厳しいのかもしれない。

3) 免疫学の理解度(平均点)の大学生と高校生の比較(表2)

大学生は授業内容の80%、高校生は60%弱の理解度を示し、小児疾病の理解度と同様に、高校生の理解度がやや低くなっていたが、授業内容の半分以上は理解されていた。

大学生は1年生の時に解剖生理学の授業で、生体の防御機構を学習しており、それを基礎にした専門的な内容であるので高校生と大学生との差は当然の結果と思われる。

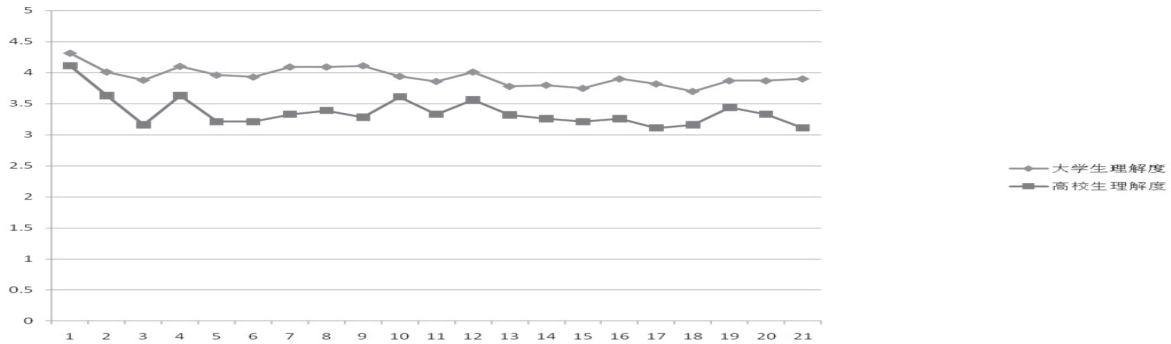


図1：小児疾病の理解度（上段が大学生、下段が高校生の理解度を示す）

（注：縦軸は理解度、横軸の番号は以下の講義項目を示す：1 小児期の分類、2 出生前の原因による先天異常、3 染色体異常の分類、4 主な染色体異常疾患、5 染色体と遺伝子違い、6 遺伝子病の分類、7 遺伝子病とは、8 代謝異常症の発症機序、9 マスクリーニングの対象疾患、10 新生児の分類と大切な用語、11 新生児仮死と呼吸障害の評価、12 仮死の緊急対応、13 新生児の生理的黄疸の機序、14 新生児の病的黄疸、15 病的黄疸の対応、16 低出生体重児の主な疾患、17 低出生体重児の主な疾患の処置、18 RDS と呼吸障害の評価、19 主な神経学的検査、20 脳性麻痺の原因と病型、21 てんかん種類と症状の特徴）

表1 小児疾病の授業評価の大学生と高校生の比較

設問項目	大学生(70人)	高校生(19人)
1. この授業のあなたの受講態度は積極的でしたか。	84.1	76.2
2. この授業の前後で十分な予習・復習をしましたか。	54.6	38.8
3. 教員はシラバス等によって授業の目的や達成目標を明確に示しましたか。	74.4	65.3
4. 授業の中で、重要なことが強調されていましたか。	85.9	80.0
5. 授業内容はわかりやすかったですか。	80.3	69.4
6. 授業の進め方に教員の工夫が感じられましたか。	76.9	69.4
7. あなたは授業の目標を達成できましたか。	74.1	66.7
8. 授業内容は、あなたの将来に役に立つと思いますか。	92.2	85.0
9. 総合的に評価して、この授業に満足しましたか。	83.1	77.5

表2 免疫学の理解度（平均点）の大学生と高校生の比較

授業項目	大学生(50人)	高校生(14人)
ウイルス感染後の生体への影響	4.18	3.42
ウイルス感染の血清学的検査	3.96	3.28
細菌の防御機構	4.18	3.28

結語

1) 理解度について

大学2年生と高校生の理解度における比較の結果は、おおよそなずける結果である。大学生にも高校生にとっても、新しい分野の講義内容であるが、大学生活1年の学習経験がこのような結果を生むのであろう。小児疾病の各講義項目の理解度の差は両者において1.0以内であり、免疫学の理解度の差と変わりなかったことから、理解度は講義回数とは関係ないと思われた。高校生の授

業体験は1回でも意義があると思われる。

2) 授業評価について

「授業内容は、あなたの将来に役立つと思いますか」「総合的に評価して、この授業に満足しましたか」の授業参加の意義や満足度に関する設問に、比較的高い評価がなされていた。今後も、高校生の要望に応えた大学の講義の開放は望ましいと思われる。